

文献紹介

社会科学分野の主題書誌

中村 弘 光*

近年の社会科学分野における書誌活動において、顕著な傾向はコンピューターを利用して書誌作成がかなり進められはじめたことと、もう一つは社会科学の各分野にまたがる interdisciplinary な書誌作成が増加していることであろう。後者は、政治学または社会学を中心にしながら広がっている。

この小稿では、それらの新しい書誌を紹介するのではなく、社会科学書誌の一般論について、最近入手した Barbara M. Hale 女史のものを中心にして紹介しておこう。

Hale, Barbara: *The subject bibliography of the social sciences and humanities*, Oxford, Pergamon Press,

1970, 7, 149 p.

ヘール女史に現在、ウェスタン・オーストラリア大学図書館副館長であるが、1968年に1年間休暇をとって、シェフィールド大学に学び論文をまとめあげたが、この新著はそれをもとにしたものである。彼女の関心は、書誌、とくに主題別書誌なるものがどのような役割を果たし、どのようなタイプの書誌が利用者にとって有用であり、どのような編成がのぞましいのかをさぐりあてることにある。

まず全体の構成を目次によって示しておこう。

1. 序 論
2. 主題別書誌の発展

* なかむら ひろみつ アジア経済研究所

- 1) この傾向の代表的な書誌: Deutsch, Karl W. and Richard L. Merritt: *Nationalism and national development: an interdisciplinary bibliography*. Cambridge, The MIT Press, 1970, 519 p. KWIC システムを使用; Beck, Carl and J. Thomas McKechnie: *Political elites: a select computerized bibliography*. Cambridge, The M. I. T. Press, 1968, 661 p. KWOC (Key Word Out of Context) システムによる。

コンピューター使用の解題書誌として有名な The Universal Reference System (New York) は Alfred de Grazia の指導下に、「政治学、政府、公共政策シリーズ」(Political Science, Government & Public Policy Series) を1965年から刊行しはじめている。このシリーズは10巻から構成され、各巻約千ページにおよぶ大なるものである。Vol. I. International affairs; Vol. II. Legislative process, deliberation, and decision making; Vol. III. Bibliography of bibliographies in political science, government, and public policy; Vol. IV. Administrative management: public and private bureaucracy; Vol. V. Current events and problems of modern society; Vol. VI. Public opinion, mass behavior, and political psychology; Vol. VII. Law, jurisprudence, and judicial process; Vol. VIII. Economic regulation, business and government; Vol. IX. Public policy and the management of science; Vol. X. Comparative government and culture. Universal Reference System は独自の分類と記述用語を利用して、コンピューターに入れているが、利用方法はかなり複雑である。収録文献の範囲は、政治学を中心としているが、社会学、経済学等隣接分野のものも幅広く入れている。

3. 社会科学・人文科学の主題別書誌：近年の発展
4. 書誌の理論
5. 主題別書誌とインフォメーションの流れ
 - 学術的コミュニケーション
 - その他の図書館ツール
 - 研究者の需要と文献探索方法
 - 異なった部門の文献の特質
 - インフォメーション蓄積と検索
6. 主題別書誌の編成
7. 若干の主題別書誌の編成
8. 書誌的ツールの利用

附録 I 書誌的ツール利用調査

II 質問表

第1章「序論」では「書誌」(bibliography)という言葉の定義づけの難かしさをのべ、ここでは主題別書誌 (subject bibliography) を比較的広義に解釈し、「印刷されたインフォメーションに対し、主題別アプローチを用いる 書誌的補助 (bibliographic aid)」とする。第2章は主題別書誌の発展を、T. Besterman, Georg Schneider, L. N. Malelés, Archer Taylor などの研究に主として依拠しながら、16世紀の Conrad Gesner の仕事から、第2次大戦後の Unesco 支援による書誌活動、また医学の MEDLARS による Index Medicus にいたるまでの発展をあとづける。

第3章「社会科学・人文科学の主題別書誌：近年の発展」では、1950年代以降、アメリカ、あるいは Unesco を中心にして論議された社会科学書誌作成方法についてあとづけてゆく。

1950年にシカゴ大学が“Bibliographical Services in the Social Sciences”, *Library Quarterly* と題して社会科学書誌活動にお

ける改革を提案する。この報告書は、書誌について(1)機能、(2)形態と編成、(3)物理的な形態、(4)種々のグループにまたがる利用者、(5)収録範囲、(6)分類あるいは編成、(7)組織と後援、(8)予約、政府補助、あるいは財団助成金による資金調達各側面にわたって問題点をとりあげ、書誌改善について次のような3段階計画を提案した。

第1は、特殊な社会科学問題についての書誌的展望のシステム、およびとくに経済学、政治学、社会学ならびに歴史における選択的抄録のシステム、この2つのサービスの採択を要請する。

第2は現在実施されている諸種書誌活動の統合ならびにその相互間の協力増大である。

第3は、社会科学出版物および書誌全体についての長期的な合理化についての想像力豊かな提案である。これは、学術雑誌がないという出版システムで、論文は小部数のみ刷られるが、その抄録は広く利用できるようにするか、あるいは個々の論文とマイクロカードで頒布し、そのカードの上に著者名、タイトル、抄録を印刷してマイクロソーダーなしで利用できるようにする。

これと同時に国際社会科学ドキュメンテーション委員会 (International Committee for Social Science Documentation) が Unesco の肝入りで創設され、社会科学諸分野の国際書誌活動が始められ、書誌活動の調整、書誌的データの標準化も進められた。

1950年におけるシカゴ大学の提案は、いわば伝統的な書誌活動の拡充を目指したものであったが、1965年にカリフォルニア大学の H. E. Boehm 博士は *Blueprint for Bibliography* と題して、社会科学・人文科学関係書誌活動についての革新的な提案を示した。彼は次のような6項目の勧告をかけた

た。

(1) 社会科学・人文科学についての単一の統合的・包括的な国際書誌システムの創設。

(2) 書誌にたいする多層的アプローチの適用

(3) システム・アプローチの適用

(4) 書誌処理プロセスの一部としてのコンピュータの利用

(5) 情報源、コンピュータ利用等についての教育政策の検討

(6) 研究のための新しいコミュニケーション体系の必要性。これは、社会科学・人文科学のための国際的通信サービスおよび新聞の確立を要請する。

Hale 女史は、これらの提言などを紹介したが、書誌活動の中心的傾向をあきらかにし、もっとも驚異的な実験として、A. de Grazia が中心となって編集する Universal Reference System をとりあげる。

第4章「書誌の理論」では、統合化された(integrated)国際書誌が、のぞましいか、あるいは各部門別、各国別のものがよりのぞましいかの問題に焦点をあてているが、著者はまったく包括的・統合的な書誌には、批判的である。第5章「主題別書誌とインフォメーションの流れ」では、学問分野によって、学術的コミュニケーションのパターンが異なることに注意し、近代的な情報検索手段の社会科学分野への適用については、故 Barbara Kyle 女史の説に例証をとりながら批判的である。

第6章、第7章では書誌の編成(アルファベット順、クロノロジカル、論理的)について一般論と最近刊行された書誌における具体的事例をもとに、その長短を上げている。

書誌編成は、対象部門・主題・資料形態によって異なることは当然であるが、Hale 女

史は、主題別書誌の場合には論理的(主題分類)編成が望ましいとのべている。

第8章「書誌的ツールの利用」は後掲の「調査」からえられた結論をのべている。意外なことは、この調査で、各分野で基準的书誌と考えられるものについて研究者があまり知っていないことで、たとえば、5人のエコノミストのうち *Index to Economic Journals* を知っていたのは3人だけであり、Unesco の *International Bibliography of Economics* については誰も知らなかった。

すでにしばしばふれたように、著者は社会科学書誌の新しい傾向(包括化、コンピュータ利用)は研究者が「ひろい読み」(“browsing”)する必要を犠牲にして、「鉅脈を手採り」(“dowsing”)する必要をみたそうとしている、とのべ、社会科学者の場合“dowsing”の必要性が少ないことを強調している。

巻末附録として、著者がシェフィールド大学留学中(1968年)に実施した書誌利用状況調査を収めている。調査事例は少ないが若干の参考になると思われるので簡単に紹介しておく。大学の中の5学部(社会研究、経済学、中世・近代史、フランス語、ならびに哲学)が社会科学・人文科学の代表として選ばれ、それらに属する教職スタッフ全員に別掲のような質問表が配布された。質問表は教職スタッフがどのように書誌を利用し、またどのようなタイプの書誌をより好むかを明らかにするように考えて作成された。質問表は57通送られたが、23通が回答を記入して返送された。回答者のうち18名についてインタビューし、2名には手紙で連絡をとった。社会科学者27名のうち、13名が回答し、人文科学者30名が回答しているが、その他の人々が回答しなかった理由は解らないし、書誌類を使っていないからだとも考えることもできない。

第2表に示されるように、22名が自身の研究のために書誌を利用している。質問表回答者のうち2名だけが、書誌のツールを全く使わないと回答してきたが、そのうち1名は、書誌的ツールの意味を誤解し、もう1名は専門分野（哲学）では主題書誌は利用価値が他の分野に比べて少ないと答えた。

第3表は、質問表のⅡ、およびⅢ、Aに対するものであるが、人文科学系統の研究者の方が社会科学系統の研究者よりも、主題別書誌をよく使っている。経済学研究者は、書誌的評論、索引誌あるいは研究誌の一部として含まれている書誌の scanning に依存している。適及的主题別書誌をあたっているのは、5人の経済学研究者のうち1人だけである。

人文科学系統の研究者はあらゆるタイプの書誌を利用しており、カレントな書誌および適及的书誌についてももっとも熱心でありまたよく知っているのもこのグループである。

インタビューでは、回答から得られたインフォメーションをさらに補足するいくつかのことがわかった。

例えば、研究者が新しいテーマにとりかかるとき、最初にすべての関連文献をさがすのではなく、標準書につけられている書誌から、関連図書・論文をさがす。一次資料が研究の基礎を作り、標準文献および書誌の展望がより詳細な文献への背景の資料、参考資料を提供する。それから穴のないように、主題別書誌にあたってみる。全員カレントな書誌をインフォメーションを up-to-date にするために利用している。

具体的な問題にとりこんでいる1人のエコノミストは、ある省の専門図書館活動を利用している。

経済学の5人は全員 *Economic Journal*,

American Economic Review（この学会機関誌の書評・書誌的部門は *Journal of Economic Abstract* とともに *Journal of Economic Literature* として1969年から総合的な書誌に編成替されたから現在調査すれば、もちろん *Journal of Economic Literature* がここにあげられるだろう—筆者注記）ならびに *Econometrica* の書誌的展望、書評に依存している。新しい文献のためには、*Economic Journal* に毎号収められている近刊雑誌論文リストに目を通して。社会学者は研究書誌のサーヴェイ、とくに *Current Sociology* の研究状況調査、書誌サーヴェイを有用だと考えており、ある講師は、あまりよく知らない分野について、情報を求める場合書誌の展望はとくに有用であり、伝統的な形の主題別書誌・索引は参考文献の多すぎて、「学生を沼地におとし入れる」傾きがあるといった。

書誌の編成について、どれが利用しやすいかよく分らないが、それより関心の大きいのは、その収録する範囲である。社会学者は、社会科学関係書誌で用いられている論理的編成について不満足であるから、自分自身の特別なトピックよりももっと幅広く見る傾向がある。しかし若干の人々は *International Bibliography of Sociology*, *Index of Economic Journals* に使われている分類表に賛意を示していた。関心によっても異なり、学問の応用面に関心ある人々は理論的傾向の強い人々よりも、より細かい分類、より精密な情報を要望する。2人のエコノミストは分類の細かい *Economic Abstracts* よりも、あらい件名のもとに整理してある *Journal of Economic Abstracts* の方を好んでいた。

第 1 表

	Questionnaires distributed	Questionnaires returned	Persons interviewed
<i>Social Sciences</i>			
Sociological studies	15	8	7
Economics	12	5	5
Sub-total	27	13	12
<i>Humanities</i>			
Medieval and Modern History	12	6	3
French	12	3	3
Philosophy	6	1	0
Sub-total	30	10	6
Total	57	23	18

第 2 表

	No. of replies	Used for research	Used for out-side information	Used for lecture prep.
<i>Social Sciences</i>				
Sociological studies	8	8	5	4
Economics	5	5	3	2
Sub-total	13	13	8	6
<i>Humanities</i>				
Medieval and Modern History	6	6	4	4
French	3	3	2	2
Philosophy	1	0	0	0
Sub-total	10	9	6	6
Total	23	22	14	12

第 3 表

	No. of replies	Sub. bibl.	Abst. journals	Bibl. reviews	Regular scanning
<i>Social Sciences</i>					
Sociological studies	8	5	8	5	2
Economics	5	1	2	4	4
Sub-total	13	6	10	9	6
<i>Humanities</i>					
Medieval and Modern History	6	6	2	4	4
French	3	3	3	2	3
Philosophy	1	0	0	0	0
Sub-total	10	9	5	6	7
Total	23	15	15	15	13

書誌利用調査質問表

UTILISATION OF SUBJECT BIBLIOGRAPHIES

Name Department

I. Do you use bibliographical "tools" when :

- a. embarking on research in your own field? Yes/No
 b. seeking information on subjects outside your field? Yes/No
 c. preparing lectures for undergraduates? Yes/No

If you use bibliographical "tools" for any other purpose, please give details

II. What type of bibliographical "tool" do you use in each of the above situations?
 Please indicate by a tick, or if you prefer, give the name of the bibliography used.

	Own research	Outside informa- tion	Lecture prepara- tion	Other
Subject indexes to periodicals				
Special subject bibliographies				
Abstracting journals				
Bibliographical reviews or surveys				

III. A. Do you scan regularly any abstracting journal, or bibliography which is published in serial form or as part of a journal? Yes/No

III. B. If so, please give the names of them

PLEASE RETURN TO: MISS B. M. HALE, Postgraduate School of Librarianship and
 Information Science, by 15th MAY, 1968.